

# 津島のいま

## 津島駐在所13年ぶり再開

7月31日(水)、福島第一原発事故に伴い休止していた双葉警察署津島駐在所が13年ぶりに駐在所業務を再開し、宮下銀次さんが駐在所員に着任しました。3月から通いでパトロールしてきましたが、現在は駐在所に住み込み、住民の皆さんの暮らしを見守ります。



「今年3月に着任してから、津島地区をパトロールして目にするのは、避難先から帰還された方や移住された方のほか、帰還に向け準備をする方々の生き生きとした姿であり、耳にするのは、再会の喜びを分かち合う人々の声や子供たちの無邪気な笑い声です」。

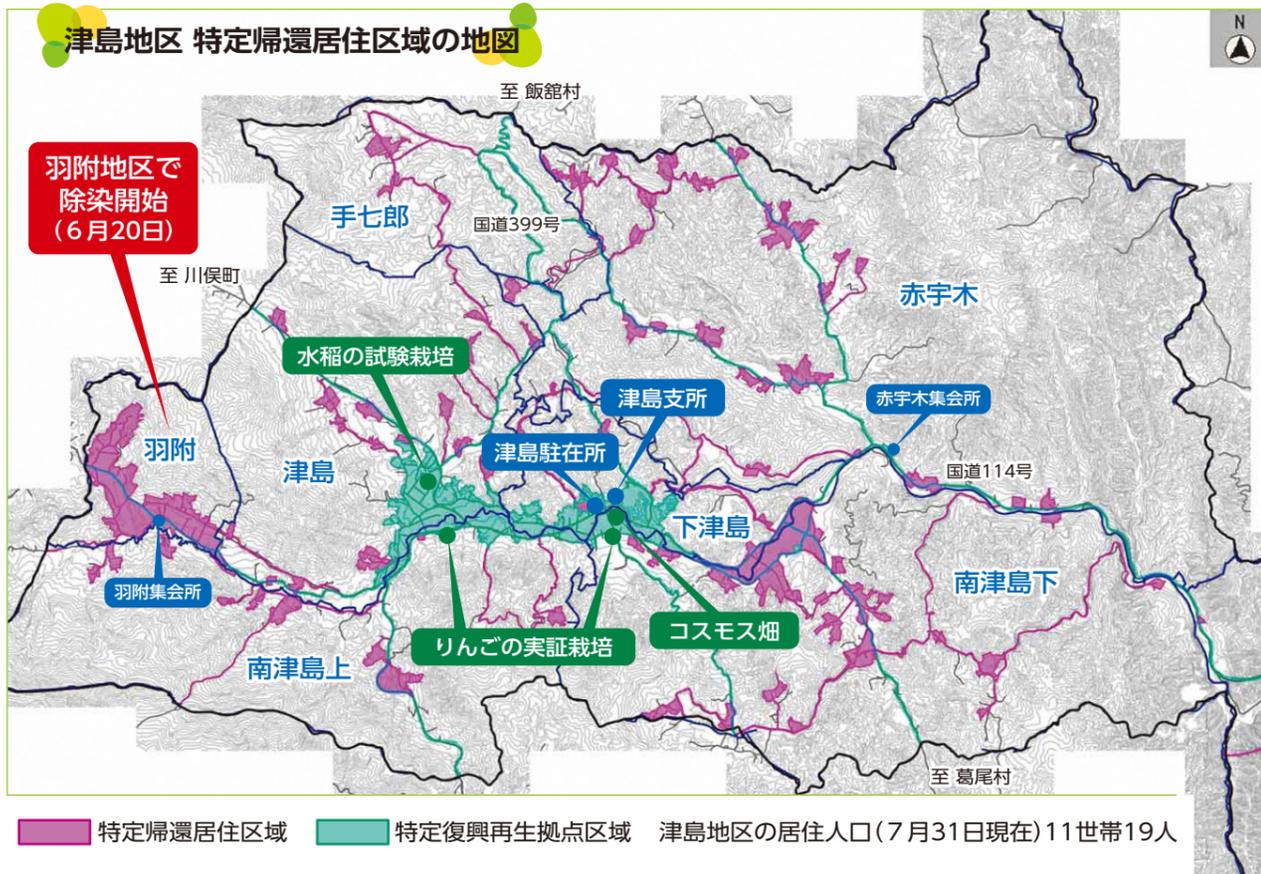
7月31日(水)、開所式であいさつを述べる宮下さん。言葉を継ごうとすると、津島地区で出会った人たちの顔を思い出し、涙がこぼれました。

着任以来、戸別訪問のほか、田植えや草むしり、花の世話を手伝うなど、地域交流を深めてきました。特に5月の田植えでは、参加した人たちの笑顔に、困難を乗り越え前へ進もうとする強い意思を感じたといいます。

「自分も復興の一助になりたい」と力強く決意を述べた宮下さん。住民思いの警察官が、復興を治安面から支えます。



住所 浪江町大字下津島 字萱深51-2  
TEL 0240(36)2017  
※不在時は双葉警察署浪江分庁舎 (TEL 0240(34)2141)へ



## 花を愛で 地域を明るく

津島住宅団地で暮らす国分晶子さんは、津島支所周辺の花壇に花を植える活動を続けています。国道114号沿いの農地に咲き誇るコスモス、ヒマワリ畑も、国分さんが育てたものです。

「花は人を呼ぶ力がある」と話す国分さん。テレビで花畑が紹介された際には見物客が大勢来て、津島地区ににぎわいが戻ったよううれしかったといいます。「大地は裏切らない」と花の秘めた力を信じ、これからも津島地区で花を育み、地域を明るく彩ります。

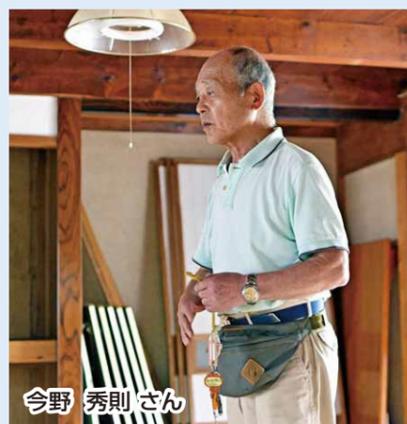


国分 晶子さん

建物の解体が進む津島地区。松本屋旅館の4代目・今野秀則さんは、旅館の建物を解体せず、保存する道を選びました。現在、築100年超の木造住宅の耐震補強、水回りの修理を進めています。

解体か保存か。これまで今野さんは悩み続けてきました。「みんな断腸の思いで自宅を解体している。自分がこの家を残して一体何ができるか、当然悩んだ」と明かします。それでも「先祖の記憶が宿る家。自分の目の黒いうちは壊さない」と思いを固めました。

修理は9月で完了する見込みです。その先の活用法はまだ決まっていません。震災を生き抜いた建物を後世に受け継ぐことで、未来に可能性を託したい、と今野さんは模索しています。



今野 秀則さん

## 旅館建物、保存選ぶ

津島復興組合は5月、津島地区で14年ぶりとなる田植えを行い、水稲の試験栽培をスタートさせました。

水田は8月、苗が伸び徐々に青々としてきました。山に抱かれたみずみずしい青田が風にそよぎ、かつて津島でどこでも見られたような田園風景が広がっています。

収穫は10月に行われる予定で、米の安全性を調査し、稲作再開を目指します。



田植え1年目の水田(8月) 栽培地:津島字津島



りんごの苗木を移植する様子(4月) 栽培地:南津島字沼和久、南津島字大柳

津島地区では水田以外にも、営農再開に向け住民の皆さんが奮闘しています。4月6日(土)にはりんごの実証栽培が始まりました。農地2か所に苗木140本を移植し、今後、栽培面積を50ヘクタールまで拡大、年間3千トンの生産を目指す計画です。

実証栽培にあたるのは「株式会社 マンカウィル東北」(山形市)です。高密度栽培による高収量と作業効率化の実現を図ります。マンカウィルホールディングスの森友宏社長は「山間部の津島地区は高密度栽培に適しているの、地域のみなさんとりんごを作り、地域を豊かにしたい」と意気込んでいます。



YouTubeで動画公開中

## 営農再開 目指して